



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：核開発に関するハメネイ最高指導者発言他

(2月17日付現地各紙)

1. ハメネイ最高指導者は、2月17日テヘランで行われた演説で、イランが原子力エネルギーから手を引くよう圧力を継続すべきだとするブッシュ米大統領の発言に言及し、「イランが核兵器を追及していないことを知りつつも、この種の言い掛かりを繰り返し提起することで、イランが高度な科学技術に到達することを妨げようとしている。何故ならば、イランが他国からの支援を受けることなく同能力に到達することは、ムスリム間の自力本願の精神を活性化することになるからである」と述べた。
2. また「米国及び世界の傲慢な諸国に対して、力強く抵抗することが成熟、発展及び自らの権利の獲得に繋がる唯一の道である。イラン国民はあらゆるプロパガンダ及び圧力を前にしようとも自らの権利を擁護すること、そして、自らの権利を獲得するであろうことを明確に表明する」と述べた。

<参考>

2月15日、ニューヨーク・タイムズ紙は、「U.S. to Produce Data on Iran's Nuclear Program」と題する記事で、ブッシュ政権は、IAEAに対して、これまで同国が収集したデータを提供することに合意したと報じている。同情報データは、イランが4年以上前の時点までに核兵器開発を進めていたことを示すものであるとされ、ブッシュ政権によるデータ提供の拒否は、これまでエルバラダイ IAEA 事務局長とのあつれきの種であった。

このデータ提供の焦点となっているのが、2004年にイラン側のラップトップ型コンピュータから秘密に抜き出され、CIAに提供された核開発関連の図表やデザインである。これは Green Salt Project と呼ばれる計画で、ウラン処理、高性能爆弾、ミサイル弾頭のデザインを含むもので、イランにおける軍事目的の核開発プログラムと見せかけの民生用プログラムとのリンクと、CIAが疑うものである。ただしこれらの情報がIAEA及びイラン側に示されるデータに含まれるかは依然として不明である。